「もっとやってみたい！」がわきあがる環境づくり
～保育ドキュメンテーションの活用を通して～

伊勢崎市立第一幼稚園

幼児が、「もっとやってみたい！」という思いをもって遊ぶことは、主体的に環境に関わり、自分の思いを実現できる喜びや嬉しさを味わい、充実感や満足感をもち、更なる意欲や小学校以降での学びにつながっていくと考える。そのために、幼児の気付きや学び、幼児に育っている力などを見取るための視覚的な振り返りが行える保育ドキュメンテーションの活用を進める。そして幼児の「もっとやってみたい！」という主体性を支える環境づくりについて、保育カンファレンスを通して明らかにしていくことを本研究のねらいとする。

研究デザイン

幼児は、園の環境（教師、友達、素材・道具、自然、）に触れ、「不思議だな」「何だろう？」「できるかな？」という探究心が芽生え、「やってみたい！」という思いから繰り返し環境に関わる中で、次第に「面白い」「できた・分かった」「次はこうしよう」という自信や興味・関心の継続性に支えられ、「もっとやってみたい！」思いがわきあがってくるだろう。

目指す幼児像：「もっとやってみたい！」がわきあがってくる幼児

研究のねらい：幼児の「もっとやってみたい！」という主体性を支える環境づくりについて、保育ドキュメンテーションを活用した保育カンファレンスを通して明らかにする。

幼児が主体的に環境に関わり、自分の思いを実現できる喜びや嬉しさを味わい、充実感、満足感をもって遊ぶ

思い思いの場所

もっとやってみたい！

それぞれの関わり方

様々な素材

より深い見取りを実現し、幼児・保護者・教師間で共有するために保育ドキュメンテーションを作成

週案の「幼児の姿」として（教師）

幼児間で遊びの共有として（幼児）

クラスだよりとして（保護者）

保育実践

保育ドキュメンテーション

環境の構成

保育カンファレンス

多様な素材との出会いの場

可能性が広がる教材

育っている力や今後の可能性について考察し、その力を生かした環境の構成・環境の再構成

カンファレンスのポイント

- 幼児の育ちや「もっとやってみたい！」がわきあがる環境の構成について多面的に考察を深める。
- “何を面白がっているのか”に着目する。
- 幼児のよさや可能性、教師の願いを各教職員がそれぞれの立場から多角的に捉え、教職員全体で共有する。
- 教職員全体で幼児の実態を把握・共通理解し「もっとやってみたい！」を支える。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点とした保育ドキュメンテーションを活用し、保育カンファレンスを行う

環境の構成に関するキーワード

教師の援助に関するキーワード

4つの視点（ 教師 ／ 友達 ／ 素材・道具 ／ 自然 ）をもとに

実践事例

□「もっとやってみたい！」につながる環境・もっとやってみたいが発揮された幼児の姿

3歳児

安心して自分を出しながら

- □ 運動会に使用した全学年の**道具や手具**を見たり触れたり、使ったりできるように、スペースを開けるなど分かりやすく用意した。
- 年長児が遊戯の入場時に並んでいた芝山に自分たちで移動し、一列になって鳴子を肩に乗せて、曲が始まるまでニコニコしながら、並んで待っていた。
- □ **安心して**楽しめるよう踊っている幼児から見える場所で幼児の動きを真似たり、不安そうにしている幼児がいた時には**隣で踊ったり**した。
- □ **一緒に踊っている友達**の様子を知らせ、みんなで楽しんでいることを感じられるような言葉を掛けた。
- 年長児が運動会で踊っていた園庭の場所に並び、手具を持って笑顔で踊り始めた。それぞれが印象に残っている動きをし、お互いの姿を見合いながら最後まで踊り終えた。

異年齢が使っていた手具

安心感の中で

一緒に楽しむ

他者を意識できるような言葉掛け

そばで見守る

4歳児

自然を感じながら

- □ **レインコート・長靴**を家庭で準備してもらった。
- 雨天時の戸外で、躊躇なく水たまりに入ったり、ジャンプをして水を飛ばしたり、より深い場所を探して深さを共有したりする。
- □ **幼児のつぶやきや発見を繰り返して**他の幼児にも知らせた。
- 発見を共有して、“揺らしてみる”“雨粒が落ちてくる”などに気付いていた。
- □ 草の上の雨粒に気付く姿から、雨上がりに遊具を拭かずに**雨の雫がついたまま**にしておく。
- 雨の雫に気付き、カップに集める。
- 集めた雨水を「水ではない」と特別なものとして扱う。
- □ **様々な天候の中でシャボン玉**をできるようにしたこと。
- シャボン玉が水たまりに付着することの面白さや不思議さを感じ、繰り返す。一緒に遊んでいる友達と共有して、同じ姿勢で同じように試す。

探求心を支える長靴、レインコート

雨や水たまり等

じっくりと繰り返し関われる空間や時間

共に体験し共に感じる

思いや考えをつなぐ

心揺さぶられる経験を一緒にする

寄り添う、見守る、認める、共感する

5歳児

クラスの友達と共に

- □ 運動会に着る**クラスTシャツ**を染めたり、**クラス旗**をつくったりする。
- □ **やりたいことが実現できる場所の確保、雰囲気づくり**
- □ 「もっと速くなりたい」という**気持ちを受け止め、応援したり頑張りを認めたりする教師**の存在
- 繰り返しリレーをする子供たち。人数も続々と増えていき、チームの友達を応援したり、バトンをもらうときも「こっち、こっち」と待てない様子で友達に声を掛けたりしていた。
- 「白チーム、こっちで話そう」「Oちゃんがいないよ、呼んでくるね」とチームの友達を意識する幼児が増えてきた。また、勝つための作戦会議が展開された。
- 運動会後、自分たちでプログラムをつくり、運動会ごっこをした。役割を話し合って決め、休憩時間には縄跳びショーを入れるなど、オリジナルのプログラムになった。

クラスの所属意識を高める
クラスTシャツ・クラス旗

クラスの一員ということを感じられるような認める言葉掛け

やりたいことが　実現できる時間

一人一人のよさを認める

目的に向かって一緒に頑張る友達

思いや考えをつなげる

5歳児

思いを実現するために

- □ **自分たちの思いが実現できる道具**
- 自分でつくった車をジャンプさせるために、友達とジャンプ台づくりを始めた。ジャンプ台づくりのために厚紙や段ボールなどの色々な素材で試していたが、ラミネートシートを活用するアイデアを教師から提案されると、「飛ぶかも」と直感した様子だった。
- 完成させた後、車を走らせたがジャンプ台にぶつかり止まった。
- □ **何度も試して**ジャンプ台の傾斜を変えられる**場や時間の保障**
- ジャンプ台を支えている紐の調節が必要なことに気付いた。紐の高さが左右で同じになるように貼り直した。

自分の思いを実現できそうな道具

自分たちで扱えるテーブルや木の箱

繰り返し試行錯誤できる場や時間

見守る、共感する

友達と考えたり、工夫したりできるように見守る

興味が重なる友達

【まとめ】　「もっとやってみたい！」がわきあがる環境づくり

環　境　の　構　成　　教　師　の　援　助

教師

- 安心する場、やりたいことが実現できる時間や空間の確保

- 寄り添う、見守る、認める、共感する、励ます等、幼児を支える

友達

- 一緒に過ごし楽しんだり、喜んだりし心揺さぶられる経験を一緒にする友達

- 他者の存在を意識するきっかけや状況をつくり、思いや考えをつなぐ

素材道具

- 探求心を支える多様な素材
- 可塑性や可動性があり、様々な遊び方ができる道具

- 考えたり思いを巡らせたりする状況をつくり出し、幼児の想像力を後押しする

自然

- 自然との出会いを大切にし、自然を感じる体験を積み重ねていける状況

- 五感を揺さぶる刺激となっていることを捉え、同じように見て同じように感じようとする

「もっとやってみたい！」がわきあがる環境づくりを、教師、友達、素材・道具、自然の４つの視点で考察した。普段行っている環境の構成と教師の援助にこそ、主体性を支える要素が含まれていることを再確認したとともに、意識しないと見落としがちになることに気付かされた。

【保育ドキュメンテーションとそれを生かした保育カンファレンスについて】

- 保育ドキュメンテーションを作成することは、幼児の心の動きや内面に迫る幼児理解、幼児に育っている力の読み取りにつながり、教師の願いや環境の構成が明確になった。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を窓口に幼児の姿を丁寧に読み取ることで多面的な評価が可能になり、評価の妥当性や信頼性が確保された。
- 保育ドキュメンテーションを活用した保育カンファレンスは、写真やエピソードからその状況を詳細に共有できた。幼児が経験していることや環境の構成について多角的に考えられ、深い考察につながり、「もっとやってみたい！」という幼児の主体性を支える環境づくりが実現できた。